



能勢高校ニュースレター

第50号！ H.23. 6月発行

連日曇りか雨の鬱陶しい日々が続いていますが、夏はもうすぐそこまで来ているようで、南の空に真っ白な入道雲が出ていました。ニュースレター6月号をお届けします。記念すべき第50号です！

大いに盛り上がった体育祭でした！

前日の雨があがった6月3日金曜日の朝、野球部員や教員がスポンジ・雑巾等で校庭に残った水溜りを吸い取る作業を行い、何とか体育祭を開催しました。

天気はどんどんよくなり、それに伴って生徒諸君の頑張りもヒートアップしていき、頑張りすぎて若干のけが人が出てしまうほどでした。各団の応援はそれぞれ趣向を凝らして見応えがあり大いに盛り上がりましたし、シンボルもそれぞれがチームカラーを活かした素晴らしい力作でした。

本校の体育祭は縦割りで赤・黄・青の3つのブロックをつくり、3年生が1・2年生を指導する形態をとっています。このことにより、団への帰属意識が他の団への対抗心を呼び、競技や応援・シンボル作成が盛り上がる仕組みとなっています。また結団式をはじめ事前の準備から団ごとに行うことで仲間意識や団結心が生まれていきます。特に3年生は体育祭が終わった後には、達成感と共に指導力や責任感も併せて獲得したと思います。もちろんそこへ至るまでに様々な葛藤や苦悩があったのですが、彼らは見事に乗り越えてくれました。

以下に各団の応援リーダーのコメントを掲載します。

赤ブロック 藤田武志

赤ブロックの団長ができたのは、みんなの支えがあったからです。応援のダンスも女子に任せればなしで、後輩たちもよく頑張ってくれました。8分間をどんな風に組み立てて行くのかさっぱり分からなかったのですが、学年毎にチームを組んで精一杯の指導をしてくれました。クラスのみんな、2年生・1年生のみんなの協力がないとダメなことがよくわかりました。みんなの体育祭を実りあるものにできました。



競技の部；黄

部門別優勝チーム

応援の部；青

シンボルの部；青



最高に盛り上がった、リレー



東郷小の子どもたちと



全力で、綱引き

黄ブロック 谷口愛佳

私は体育祭の団長をすると決めてから、みんなをしっかりとめていけるのかと不安でした。しかし、先生方やクラスのみんな、後輩たちが協力してくれたおかげで最後まで黄ブロックの団長として頑張れたと思っています。体育祭当日は今までの練習の成果も発揮でき、競技の部で優勝することができました。大いに盛り上がり、とても楽しい体育祭になってよかったです。

黄ブロックのみんな、協力してくれてありがとうございました！！



青ブロック 堀口晃平

僕は、体育祭を通して学年・クラスの友情がさらに深くなったと思いました。

各団体の応援では、3年生が積極的に後輩を引っ張り、指導する姿が見られ、上級生は大変な思いをしましたが、後輩もまた体育祭が近づくにつれ、こちらの思いをわかってくれるようになりました。

そして体育祭本番では各競技にみんな一生懸命に取り組み、特にリレーでは仲間を信頼し応援する生徒が多数見られました。僕はこれを見て、体育祭を通して学年・クラスの友情と繋がりが生まれたと感じました。



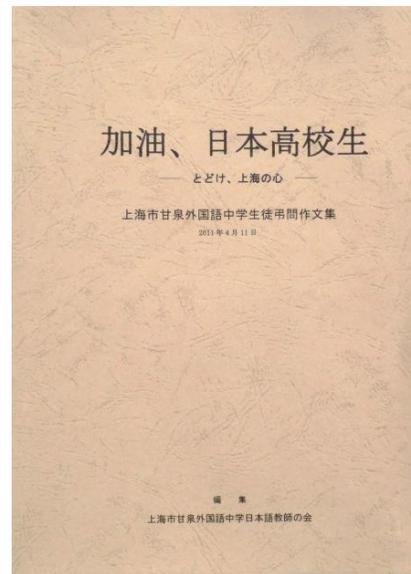
体育祭終了後のアンケートの結果、92%の生徒諸君が今年の体育祭を「良かった」と回答していました。コメントの中に「今までこんなに楽しい体育祭はなかった。想像以上に楽しかった。」とあり、一生懸命頑張ってきた生徒諸君共々報われた思いがします。また当日体育祭を見に来て下さった方々には心から御礼申し上げます。皆さまのたくさんの応援のおかげでさらに盛り上がったと思います。ありがとうございました。

日本の高校生 加油（がんばれ）！

5月24日（火）の朝日新聞の社会面で、中国・上海市で日本語を学ぶ生徒たちが、東日本大震災で被災した高校生に向けたメッセージを日本語でまとめた文集「加油（頑張れ）、日本高校生 —とどけ、上海の心—」を作成し、日本大使館や交流のある日本の高校などに届けたことについて紹介されました。

昨年度、本校で1年間、長期留学生として学んだ 上海甘泉（カンチュワン）外国語中学の高校2年生 陶 嘉昊（タオ ジャーハオ）君もこの文集作成に参加しました。震災後すぐに日本のお母さん（ホストファミリーとしてお世話になった名田さん）にメールで安全確認したこと、本校での地震に対する避難訓練の経験やインターネットの掲示板で応援メッセージを書き込んだことなどを記しています。

ジャーハオ君は、この8月に本校及び豊中市立青少年自然の家わっぱるなど能勢町内で開催を予定している「ユネスコスクール 学びの交流会」に参加するため、再来日する予定です。



←「加油（頑張れ）、
日本高校生
—とどけ、上海の心—」
本校にも届けられました

タオ ジャーハオ君 →



本校卒業生2名が教育実習生として大活躍しました！！

昨年度に続き、卒業生2名を教育実習生として迎え入れることになりました。毎年、卒業生が教育実習生として学校に戻ってくることは、教育成果の大きな表れであると確信しています。どちらも総合学科2期生として、平成20年3月に本校を卒業した生徒で、国語科の教員免許取得をめざしての実習となりました。

中村紗貴（東中学出身）さんは、梅花女子大学文化表現学部日本文化創造学科の4年生で、指導教員が草木先生、実習期間は6月1日～14日までの2週間でした。名田唯史（西中学出身）君は、京都外国語大学外国語学部日本語学科の4年生で、指導教員が明楽先生、実習期間は6月1日から21日までの3週間でした。

ふたりとも、本校先輩であること、生徒と年齢が近いこと、優しく穏やかな性格からか生徒たちから慕われ、授業やホームルーム、クラブ活動、体育祭などを通じ、教員としての経験をしっかりと積むことができていました。実習期間の終わりには、この間培った力を発揮するため、研究授業に挑戦しても

らいました。ふたりとも、プロフェッショナルとは言い難いものでしたが、少しでも子どもたちに理解させようとする努力や、伝えようとする意欲については、先輩教員にとっても良い刺激になるものでした。ふたりのこれからの活躍を大いに期待します。

中村紗貴さんと名田唯史君からのメッセージを紹介します。



2週間という短い期間で、限られた授業回数でしたが、あっという間に終わってしまったように感じました。間に体育祭を挟んだこともあり、もっと長いかなあと感じていましたが充実した2週間になりました。生徒の皆さんから、どう見えたかはわかりませんが、先輩として、教育実習生として見本になれたでしょうか？

この2週間、楽しいことばかりではありませんでしたが、未熟な私を受け入れてくださったこと、そして支えていただき先生方には大変お世話になりました。貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございます。

中村 紗貴



3週間の実習を終えてまず思うのは、この実習がとても楽しくかけがえのないものであったということです。よく「長いようで短い」という言葉を耳にしますが、私にはとても短く感じ、まだまだ生徒たちと接していきたいと思いました。それは、生徒をはじめ周りの方々のサポートのおかげで、のびのびと色々なことを経験できたからだと思います。

授業以外にも生徒と接する時間は多く、その度に授業で見ることのできない彼らの一面を見ることができ、うれしかったです。教師の役割は単に教科書の内容を教えるだけではないと改めて実感することができました。私にとってこの実習での経験はとても貴重、忘れられないものです。この思いを忘れないように、これからも色々なことに挑戦していきたいと思います。3週間、本当にありがとうございました。

名田 唯史

文化祭テーマ決定しました！

「Build Our 'KIZUNA' ～絆を築く～」

「本校生をはじめとして地域や多くの人々とのつながりを持ち、親睦・交流を深めると共に、学校、各クラスの団結と活性化を図る」ことを目的に、10月1日（土）に開催します。請うご期待！